

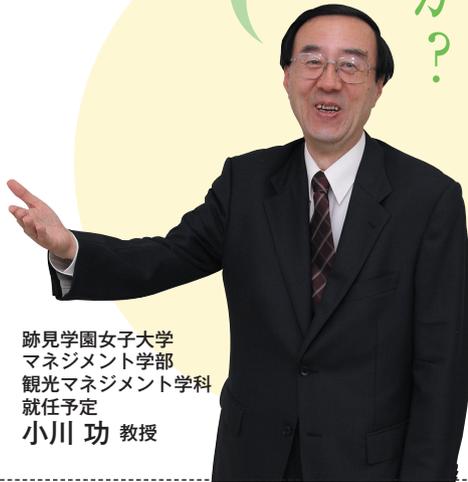
注目授業の先生に聞く旬のキーワード②  
「観光経営論」「国際交通経済学」「宿泊産業論」を受け持つ先生方に、最近話題となっているキーワードについて伺いました！

# 観光マネジメント学科編

テーマパークって昔からあったんですか？

実は明治時代からテーマパークはあったんです。

TDLが成功したのはほかにないオリジナルティがあったから



跡見学園女子大学  
マネジメント学部  
観光マネジメント学科  
就任予定  
小川 功 教授

テーマパークといえば、まず「東京ディズニーランド(TDL)」が思い浮かびますよね。今や、中国や韓国などからもたくさんの方が訪れるテーマパークの代表的な存在ですが、実は、明治から大正にかけて、日本にはテーマパークのルーツともいえるべき、動物園から少女歌劇まで備えた遊園地がたくさんあったんです。ところが、そのほとんどは消えてしまいました。

最近では1987年に、いわゆる「リゾート法(※)」が施行され、各地域に次々とテーマパークが誕生しましたが、大半が閉園になったり、閑古鳥が鳴いていたという状態です。  
一方で、TDLがこれほど多くの客を集めたのは、非日常的な空間の演出、キャストのホスピタリティ発揮、購買欲をそそるオリジナルグッズ等々、ほかにない、いくつものオリジナルティを打ち

出したためなんです。つまり、しっかりしたトータルなマネジメントの下に運営されているんですね。これは温泉地や保養地であっても、成功例では同じことが言えます。

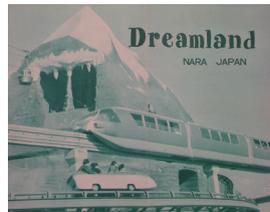
テーマパークや観光施設はそれ自体が単独で成立しているわけではなく、宿泊施設や旅行会社、交通機関などの、さまざまな連携が決め手となります。私が受け持つ『観光経営論』は、観光マネジメントの基礎を学ぶ基幹科目なので、これらのすべてを包括的に扱います。

日本には、まだまだ埋もれている観光資源がたくさんあります。これらは意外に地元の人には見過ごされがちで、むしろ、外部の人たちによってスポットが当てられることが多いんです。私の授業では、こうした地域の観光資源を発掘できるプロの眼を養いたい。観光振興を通じて、地域の活性化に貢献できるように、観光力リスマ的な女性になってほしいんです。

### 用語解説

※リゾート法……正式名称は「総合保養地域整備法」。リゾート産業を発展させ、国民が多様なレジャーを楽しむことで、経済効果をあげることを目的に1987年に制定。

奈良ドリームランド(写真上)と松島ホテル(写真下)のパンフレット



### 小川教授の授業は… 観光経営論

ホテルや旅館などの宿泊施設をはじめ、旅行会社、鉄道・飛行機・バスなどの交通機関、テーマパークなど、観光産業全体のマネジメントのあり方を学びます。人気の観光地、再生に成功した地域スポットなど、多くの事例を取り上げながら、資料や映像を使って、「現場を知る」ことをめざします。

今、  
話題になって  
ハブ空港って何ですか？

世界各地の  
航空路線の  
拠点となる  
空港のことです。



跡見学園女子大学 マネジメント学部  
観光マネジメント学科 就任予定  
山田 徹雄 教授

ヨーロッパに比べ  
日本の空港を囲む環境は  
大きく立ち後れています

前原国土交通大臣が、羽田空港を24時間使える国際的なハブ空港にしたいと発言したことで、ハブ空港、という言葉が一気に注目されるようになりました。羽田空港を世界の拠点空港にして、成田空港との棲み分けを図りたいようですが、市場経済の考えで言えば、2つの空港は本来競争していくべきなんです。ヨーロッパでは、すでにハブ空港の整備は終わっていて、現在は地方の小規模な空港同士を結ぶ「2地点間輸送」の時代になっています。その点で、日本の航空行政は2周遅れていると言えるでしょう。また、ヨーロッパでは、日本の新幹線のような高速列車が国際空港に直接乗

### 山田教授の授業は… 国際交通経済学

日本とヨーロッパの交通システムを比較し、国際交通にまつわるさまざまな問題を経済学的な視点から分析。その成果を踏まえて、国際交通のあるべき姿を考えていきます。航空網だけでなく、鉄道網やトラックなどの陸上輸送網も扱い、相互の関連性についても学んでいきます。

り入れています。空港と鉄道との結びつきという点でも、日本は大きく立ち遅れているんです。こうした日本の空港・航空の抱える問題を知らるためにも、皆さんには積極的に海外に出かけ、見聞を広めて欲しいと思っています。

最近、体験型の旅行が  
流行っているって  
本当ですか？

お仕着せでない、  
自分が  
主役になれる  
旅が人気なんです。



跡見学園女子大学 マネジメント学部  
観光マネジメント学科 就任予定  
篠原 靖 准教授

「民泊」は旅をする側と  
受け入れ側の要望が一致した  
現代の旅の代名詞

今、「民泊」と呼ばれる体験型の旅に人気が集まり始めています。自分が旅番組の主人公のように、農家や漁村に泊って、野菜の収穫を手伝ったり、獲った魚をすぐにさばいて食べたりといった体験をするものです。現代は、趣味や嗜好が多様化し、これまでのようなお仕着せのバック旅行などは敬遠されがち。自分で何かを発見できる、個人や少人数のグループでの旅行が好まれるようになっていそうですね。このように旅の志向が変化している中で、過疎化に悩む地方が、地域経済の活性化を図るために民泊に目をつけた。つまり、旅をする側、受け入れ側の双方の

### 篠原准教授の授業は… 宿泊産業論

ホテルや旅館、民宿、ペンションなどの宿泊産業をテーマに、江戸時代の旅籠から最新のホテル事情に至るまでの歴史を学びます。さらに、各時代の中で、社会や経済環境の変化が国民の宿泊動向にどんな影響をもたらしてきたのかを追究し、21世紀型宿泊産業の役割と繁栄の道筋を探ります。

要望がマッチングしたことが、民泊ブームにつながったといえるんです。日本は現在、「観光立国」をめざし、国の観光予算も大幅に増やそうとしています。転機を迎えている観光の中でも、中心的な存在である宿泊産業について考えていきましょう。